

YMCA News

5



「YMCAと僕とサッカー」

石崎 稜 (盛岡YMCAベストキッズ・ジュニアユースOB)

僕は、ベストキッズ・ジュニアユースでゴールキーパーをしていました。僕は小学4年生の時にベストキッズに入ると同時にキーパーを始めました。そんなキーパー筋な僕ですが、歴代ベストキッズのゴールキーパーの中で1番失点をしているのではないかと思います。しかし、サッカーもキーパーもやめたくなくなったことは一度もありません。それくらいYMCAでやるサッカーが楽しかったのだと思います。

そんな失点しまくりの僕ですが、ベストキッズ時代での1番の思い出は、「かもめの玉子セーラーカップ」でSSS水沢に勝った試合です。その試合の後は、あまりの嬉しさにテンションがおかしくなっていたことを覚えています。全然試合で勝てない中で勝てたことが本当に嬉しかったです。

そして、僕が中学2年生の時にジュニアユースができました。ジュニアユースの練習は、中学の部活とは比較にならないほどハードでした。

楽しいと同時に辛いと思うことも多かったです。試合で交代を告げられたことに、ふてくされた態度をとってしまい、こっぴどく叱られたこともあります。それでも最後までやっていけたのは、響や牧人、優晋といった仲間がいたこと。そして、眞太郎をはじめとしたスタッフやリーダーの存在が大きかったと思います。もう1度あの頃に帰ってサッカーをしたいと思うくらい楽しいジュニアユース時代でした。

YMCAでは、サッカーのことは勿論ですが、サッカー以外の事もたくさん教えてもらいました。

これからもYMCAで教えてもらったこととキーパーで大切な「折れない心」を大切にしたいです。

(筆者中学時代 サッカーキャンプ

於：陸前高田野外活動センター)→



盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～ 職員紹介 ～

【前潟センター】

千田 汐里さん



前潟センター長の「たもり」こと東森が、前潟センターに4月から配属された新職員を紹介します。岩手県平泉町から金色の風とともにやってきた「千田汐里(23歳)」さんです。平泉町といえば中尊寺金色堂・毛越寺など世界遺産の街として有名ですが、もう一つ、平泉には伝説とされる物語があるのも有名な話。「時は鎌倉時代、源氏と平家は激しい合戦を繰り返していた。源平の戦いに颯爽と馳せ参じ平家討伐の最大の功労者とされた人物『源義経』。後に朝敵とされ兄・頼朝に追われ平泉に身を隠しその生涯を終えた。」そんな歴史上稀にみるヒーロー的武士義経の幼少時代の呼び名といえば「牛若丸!」そう、千田汐里さんのリーダー名は「うしわか!!」ひらりひらりと大橋の欄干を飛び回る身軽な牛若丸。こちらのうしわかは何だしてどうなのか!?

子ども相手に本気でトランプ・UNO・将棋・オセロで遊ぶうしわか!...全敗です。スポーツは!? 苦手です。子どもたちも、うしわか相手なら勝って喜べるからうしわか大好きなんです(笑)。はじめの内は子どもたちのパワーに圧倒されていたうしわかも、数日で子どもたちに負けない元気な声ではしゃいでいます。そして、水曜日には水曜水泳(幼児・小学生)にも参加しています。水泳担当スタッフも「声出してるよね!」と話すほど学童内外でパワー全開のうしわか。一転、事務所内では脱力感満載の話し方になりますけどね(笑)そんな「うしわか」は果たしてどんな風を吹き込んでくれるのかとても楽しみです! よろしくお祈いします!!

前潟センター長 東森聡

【盛南センター】

相馬 みなみさん



こんにちは! 獅童です。私からは、今年度盛岡YMCAに新しく仲間入りした、相馬みなみさんを紹介。リーダー名は「ミニオン」なんかかわいらしい現代的なリーダー名でしょう。YMCAに入職する前は、新幹線の内車販売をしていた経歴を持ち、東京から函館まで股にかけ仕事をしていました。実は、みなさんも気づかないうちに会っていたかもしれませんね。

盛岡YMCAでは盛南センターに所属し、ぷらいむ・たいむ盛南校と月曜水泳教室に参加をしています。ぷらいむ・たいむ盛南校では、中で塗り絵やごっこ遊びをしていたかと思いきや、気づけば外で走り回るなど、子どもたちと一緒に日々を楽しく過ごしています。月曜水泳教室では、普段かかわっている学童の子どもたちだけでなく、分け隔てなく楽しんでいます。実は泳げませんが...そこは元気な声掛けでカバー。

いつもフワッとした雰囲気を持っていますが、細かなところにも気を使って、子どもたち一人ひとりにも優しく接しながらも、自分の思ったことを自分の言葉でしっかりと伝えてくれています。また、子どもたちと年齢的に近い事もあり、話す話題や興味もお互いに共感しやすい部分もあるようで、子どもたちとの関係も少しずつ築くことが出来ているように感じます。これからも、子どもたちとのたくさんの出会いの中で、多くの事を感じ、YMCAのスタッフでしか味わうことの出来ない人との関りの中で、大きく成長して欲しいと思います。

盛南センター長 浅沼慧

～ リーダー歓迎会 ～

こんにちは! チーズです。私から新入生歓迎会について報告させていただきます。4月15日(日)に、内丸教会をお借りして行った新入生歓迎会当日はあいにくの雨。こんな状況で新入生たちは来てくれるのか...と心配になりましたが、内丸教会で待っていると、「こんにちはー!」と元気な声を響かせて続々と足を運んでくれ、53名の新入生が集まってくれました。私たちリーダーのプログラム「日本地図を作ってください!」の合図でぞろぞろと動き出し、今年の新入生も北から南まで日本全国から岩手に集まっていました。

ちなみにダントツで多かったのは聞くまでもなく岩手県でした! その後のプログラムも盛り上がり、たくさん新入生と楽しい時間を過ごし、かわかることが出来ました。たくさん遊びお腹が空いてきたなというところで、ワイズの方が作ってくださっている焼きそばのいい香りが漂ってきました。リーダーたちが作ってきたご飯もテーブルに出し、全員で声を合わせて「いただきます!」。お腹いっぱいになるまで食べることができ、その中でもYMCAの活動や魅力をリーダーたちもたくさん伝えていて、少しでも伝わっていたら嬉しいなと思います。

楽しい時間はあっという間でもう帰る時間に。この中から、盛岡YMCAに興味を持ってきて、一緒に活動してくれる仲間がたくさんいてくれたら嬉しいなと思っています。これから、新しいメンバーで活動していくのがとっても楽しみです。今年の新入生歓迎会もたくさんの方に協力していただき大成功に終わりました! ありがとうございました。

盛岡大学4年 小野寺保乃香(チーズリーダー)



～4月アドベンチャー～「レッツアウトドアクッキング！」

こんにちは!マックスです!

4月アドベンチャークラブ「カシオペアクラス」の報告をさせていただきます。今年度からアドベンチャークラブはクラス分けされ、4月22日に行われた「レッツアウトドアクッキング」には、小学校3年生から高学年までの子どもたち9人、リーダー8人が参加し都南つどいの森にて野外炊事を行いました。

到着するとグループの仲が深まるちょっとしたゲームをし、お互いを知ることができました。そしてアウトドアクッキングの始まりです。さすが高学年、グループで協力して、あっという間に薪を割ることができました!そして、ここからがカシオペアクラスならではのテーマを「NOペーパー」とし、いつも使っている新聞紙やチャッカマンなどを使わずに火起こしをしました!各グループ、舞切り式火起こし器を使って火起こしをすることにチャレンジしました。操作するのも難しく、どのグループも悪戦苦闘。

しかしだんだんとコツを掴み、煙が出てきました!しかし火はつきません。それでも諦めずにグループ全員で協力し、歌を歌ったりリズムを刻んだりして頑張っていました。

しかし、時間も迫り、ファイヤースターターに変更。ほぐした麻紐に火花で火をつけ、ご飯を炊くことができました!また、子どもたちが持参したウィンナーや野菜、マシュマロなども焼きました。そして、火やご飯の大切さや、昔の人たちの偉大さを実感しながら美味しく楽しくご飯を食べました。今回の活動ではリーダーたちも子どもたちも、学年でクラスを分けて新しいことにチャレンジすることの難しさと楽しさを実感しました。これからの新しいアドベンチャークラブでも様々なことにチャレンジしていきたいと思います。次に繋がる良い活動となりました。ありがとうございました。

岩手大学3年 東彩由海(マックスリーダー)



～サンデースクール～

4月サンデースクールは子ども18名、リーダー10名、スタッフ1名の合計29名で、ちぎりパンづくりをしました。みんなで、作り方の説明を聞き、その後それぞれのグループでちぎりパン作りを開始しました。はかりのメモリを見て絶妙な指示を出す中学年と、その指示通りにスプーンで小麦粉をすくってボウルに入れる低学年の姿が見られたり、まとってきた生地を順番に力いっぱい叩いたりこねたり時には生地を落としそうになったり.....グループごとに個性豊かに作業は進んでいきました。みんなで一つのパンを作って、最後にちぎって食べるのがちぎりパン、ということで、パンをどういう形にするか話し合いをしました。星型に配置したグループや、丸い小さなパンを敷き詰めて大きな丸いパンにしたグループ、パンの形もグループの個性が表れていました。

パンの飾りつけも、アポロやマールチョコを動物の耳にしたり、チョコソースをパンに練り込みマールパンにしたり、リーダーが飾り付けたパンにちょっぴりいたずらをしたり...グループで楽しみながら出来ました。

パンを焼くのに苦労したグループもありましたが、最後は全員でいただきますをしておいしいちぎりパンをちぎって食べる事ができました。新年度が始まり、次回5月サンデースクールは今までの工作や料理ではなく、外におでかけをする活動となっております。ちょっと新しい5月サンデースクール、ぜひご参加ください。詳細を載せたチラシは25日ごろ発送いたします。今年度もサンデースクールをよろしく願いいたします!

岩手大学3年 尾河芽生(ビリケンリーダー)

「愛」の反対は？

最近、僕の頭の中は大リーグ「エンジェルス」の大谷選手のことでいっぱい!!打者として試合に出ればHRを連発。投手としてはあわやパーフェクトといった快刀乱麻のピッチングをする。テレビのニュースを観ていてスカッとする。溜飲が下がるとは、まさにこういうことだろう。それ以外で頭の中を占めているのは、芸能情報だ。誰と誰がくっついた、離れたという記事をスマホでチェックしているうちに、いつい夜更かしをしてしまう。つまり、仕事を除くと僕の頭の中はスポーツニュースとゴシップでほぼ支配されているのである。

昔、パスカルは「人間は考える葦」と言い、「人間は考えるからこそ人間なのだ」と説いた。一方で現代のある哲学者は、人間の「習慣」を日々の繰り返しから違いを無視したものと定義し、「人はむしろ、考えない方向に一生懸命に生きている」と解説している。僕たち日本人は、こんなに恵まれた社会の中に生きていても尚、日々の生活を繰り返すことに精一杯のようだ。「わずらわしいこと」「自分が傷つきそうなこと」等、普段と違う事柄はことさら無視して、考えないように、考えないように心のバランスを保ちながら生きているのかも知れない。しかし、いったん立ち止まって周囲を見回してみると、原発の問題、シリアへの空爆、ロヒンギャ難民など様々な社会課題が山積みだし、僕たちの住む盛岡というコミュニティもまた、多くの課題を抱えている。

全国のYMCAの若者たちがこの度、「ユース平和委員会」を立ち上げた。中国、韓国のYMCAに集う若者たちと協働して北東アジアの平和の実現に向けてアクションを開始する。盛岡からは、岩手大学の留学生オン・ホー・イン君(メンバーリーダー)が委員となり、広島に折り鶴を送る運動を進めている。折り鶴を送ることは重要だが、むしろこのことをきっかけに平和について考えてみることももっと大切だ。タイトルに戻ろう。

愛の反対は何ですか?この問いにマザー・テレサは「愛の反対は無関心である」と答えた。

僕たちは、習慣に逆らい、まず立ち止まり、考えることから始めなければならない。

そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。』

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』・

新約聖書 マタイによる福音書 25章34～35節

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

ネパールでしろくまも考えた⑥

「働く女性」



日本から一緒にネパールを訪れたネパールマニアの村上さんが十数年前に出会った女性を訪ねることになった。その女性は当時のネパールでは珍しかったキリスト教の信仰者であった。村上さんとガイドのラビンドラさんの記憶を頼りにその女性の家を訪ねた。しかし、その場所に行ってみると家は震災の被害を受け、ほとんどが倒壊してしまっていた。近所の方々に方向を聞き、少し離れた場所に引っ越したということが分かった。

教えてもらった場所へ改めて訪ねていくと、畑の中に教室より少し広い程度の作業場とタンで作った簡易的な小さな家が建っていた。そこで探していた女性と2人の娘さんに出会えた。ミシンが10台ほど並ぶ作業場で再会の思い出話と共に様々な話を聞く中、2人の娘さんたちが行っている仕事にとっても興味を引かれた。お姉さんの方がその場所の代表のような立場で、女性が社会に出て働くための職業訓練施設を運営していた。

ネパールの女性はもともと非常に働き者だが、基本的に専業主婦ばかりである。そんな女性たちが裁縫の技術を学び、社会に出て働くようになっていくという。ネパールでもこのように女性の立場や仕事が時代と共に移り変わっていることを実感した。また、その施設では各国から訪れるボランティアと共に井戸を作ったり、貯水タンクを設置したり、様々な活動もしているようであった。自分たちも震災で家を失い苦勞の多い生活のはずなのに他人のために働くネパールの女性の強さも感じた。良い出会いに感謝したい。

本町センター副センター長 家村知佳

表紙の写真から



4月8日に開催された、サンディスクール「ちぎりパンを作ろう!!」の様子。もともとはサタディスクールといって土曜日に行われていました。企画、募集、運営のほとんど全てを学生リーダーが行うプログラムです。当時、岩手大学の神永瞳リーダーが体制を整え、定例化しました。あれから15年。数えてないけど、かれこれ100回近くは行っていると思います。